

# 八戸工業大学第二高等学校

「20年後に輝く青森県のために」



第1回高校生模擬議会参加 八戸工業大学第二高等学校 平成29年2月9日(木)

## 20年後に輝く青森県のために



ロゴマーク・イラスト作成:八戸工大二高美術コース

八戸工業大学第二高等学校

### 高校生模擬議会に参加するために

青森活性化プラン...?



まずは青森をもう一度見つめ直すところから!



ワークショップ開催

「青森の良いところ・残念なところ」

「20年後の青森に期待すること、  
なりたい自分」 etc



高校生模擬議会に参加するために、まずは青森をもう一度見つめ直すところから始めようということで、青森中央学院大学の佐藤先生を講師に招き、ワークショップを開催しました。

ワークショップでは高校生、大学生、そして銀行員、塾講師など、様々な大人も交えて話し合いを行いました。

さらに2回目のワークショップでは、真剣に青森を思う希望した14名が集まり、少人数で多くの意見を交換しました。

### ワークショップ①

講師:青森中央学院大学 佐藤 淳 先生



参加者:八戸工大二高2学年生徒100名  
保護者、大学生、卒業生、八戸市内で働いている方々など30名

「青森のことや自分の将来のことを真剣に考えるきっかけになった」  
「大人のひとたちの経験や意見を聞いて、視野が広がった」

→20年後の青森と自分たちのために、何ができるだろう...

私たちが行ったワークショップなのですが、話し合った内容は青森の良いところと悪いところ、そして青森の未来と私たちの将来について話し合いました。

私たちが行ったワークショップでは、大きくキーワードがありまして、それが「20年後」という言葉なんです。(2、3、4)

### 真剣に青森を思う14名が結集!!

#### ワークショップ②

講師:青森中央学院大学 佐藤 淳 先生



夢を叶えて「カッコいい大人」になっているために  
何が必要か?

こちらは「20年後、こんな自分になりたい」という題で出た意見なのですが、「地元を張って帰れる人になりたい」ですとか「積極的な大人になりたい」、「夢をかなえたい」、そして「格好いい大人になりたい」など、本当に様々な意見が出ました。

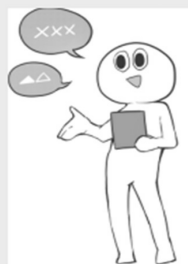
他にも「ハワイに住みたい」ですとか、こちらにはないですが「石油王になりたい」ですとか「お金持ちになりたい」、人それぞれ様々な意見が出ました。(5)

## 20年後、こんな自分になりたい

5

- 地元で胸を張って帰れる人になりたい。
- 積極的な大人になりたい。
- 早いうちに結婚したい。
- 趣味を持ちたい。
- なりたい職業に就きたい。
- 何においてもリーダーになりたい。
- ハワイに住みたい。
- かっこいい大人になりたい。

etc...



## 今の自分達に必要な行動や経験は何か？

6

- めざす職業に就いている人に話を聞く
- 同じ夢を持った人と話をしたり、お互いに刺激を与え合う
- ボランティアを通じて地域の人と交流する

etc...

## 青森県に応援してもらいたいこと

7

- 子供から大人まで、地元での触れ合いの場所をつくって欲しい
- いろんな経験をするために海外・他県に行く費用を援助して欲しい
- 若者や他県から来る観光客のためのイベントを増やして欲しい→例えば...

etc...

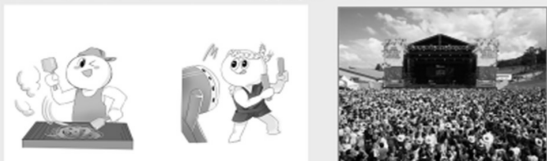
## 「遊びさこいへ！BFM」

8

・青森のグルメと音楽、そして祭りを融合させた大規模フェス開催！

イメージは

B1グランプリ + 青森版六魂祭 + ライブ



この話し合いを通して、私たちにはまだまだ全然足りないものや、これからもっと必要となってくるものが見えてきました。

それがこちらなのですが、私たちが目指す職業に就いている大人、人生の先輩からお話を聞いたりですとか、同じ夢を持った同世代の人々と語り合うことで刺激を受けて、もっと自分の夢に具体性を持つことがこれから必要となってくると感じました。また、ボランティアや学外学習を通して社会とのつながりを深めることによって、これからもっと経験値を高めていくことが大切だと感じました。(6)

そこで、私たちは経験値がもっと必要だと言ったのですが、より深い経験を積むに当たって、私たち高校生だけではどうしようもない、青森県に応援してもらいたい問題が発生してきました。

それがこちらなのですが、1つ目が、子どもから大人まで、地元での触れ合いの場所がほしいということで、この場所というのが施設などということではなく、私たちが行ったワークショップのような話し合いの場、経験を増やす機会を提供してほしいということでして、そういう場所が増えていくと、私たち高校生の活躍の場が広がると考えました。

2つ目が、いろんな経験をするために海外・他県に行く費用を援助してほしいということで、県外の大学に出て勉強したいと思っていたり、海外へ出たい、留学したいと思っていたりしても、金銭面の問題で親から反対されてしまったりなどして、夢を掴むチャンスを失ってしまう高校生も少なくはないと思うんです。お金がないという理由でチャンスを潰してしまうのは勿体ないことだと思うので、お金などを気にせず私たちが何でも挑戦していける環境づくりがこれからもっと大切になっていくのではないかと思います。(7)

青森県 高校生

DREAM SUMMIT



プランの背景

- 青森を活性化させるのは「人」  
特に私たち「若者」が重要！！
- 若者が夢を持ち、協働できる青森が理想
- 同世代の繋がりを深めることで青森への愛着を深める



プランの概要

何かに挑戦したい高校生を大募集  
希望する「夢分野」を選択



「夢分野」ごとに年間に2回合宿  
オリジナルプログラムに参加



プログラムの様子をSNSで発信  
活動をアピール

オリジナルプログラムその1『ふるさと体験』

- 地元料理体験  
(あわよくば新メニュー開発)
- 三味線体験
- はねと体験[祭体験]
- リンゴをもぎ取り食べる<RMT>体験
- 漁師になろう／農家になろう



最後の意見なのですが、若者や他県から来る観光客のためのイベントをもっと増やしてほしいということで、こちらについては私たちが少しプランを立ててきました。その名も「BFM」というイベントです。

私たちは青森のグルメと音楽、そして祭りを融合させた大規模なイベントの開催を考えました。「こいへ」というのは「来て下さい」という意味で、BFMとはB1グランプリの「B」、青森六魂祭のフェスティバルの「F」、ミュージックの「M」をとって名付けました。

次に内容について説明していきたいと思います。グルメではB1グランプリなどで有名な「せんべい汁」や「つゆやきそば」など、県内の食品を県外の観光客へPRします。祭りではねぶた、ねぶた、立ちねぶた、三社大祭などの山車を集め、青森県版六魂祭を開催したいと考えています。ライブでは、若者の間で有名なアーティストを呼んで若者の集客を高めたいと思っています。以上の3つを融合させたBFMを開催することによって県外からの観光客が増加するだけではなく、県内の若者も楽しめると考えます。(8)

以上のような意見をまとめて私たちが考えた青森県活性化プランはこちらです。

「青森県高校生DREAM SUMMIT」。右下のマークは八戸工業大学第二校等学校美術コースの2年生にデザインしてもらいました。このマークは青森県のりんご、そして2つの輪で、いろいろな人とつながるという意味があります。(9)

プランの背景は、青森県を活性化させるには人が重要と考え、特に若者達が重要と考えました。若者が夢を持ち、同世代とのつながりを深めることで青森県への愛着が増し、さらにこれからの青森県に若者が増えていくと考えました。(10)

プランの概要はこのようになっています。何かに挑戦したいと活力溢れる高校生を大募集します。(11)

## オリジナルプログラムその2『青森の現状と課題を知ろう』<sup>13</sup>

1. 夢プレゼン
2. 青森の先輩先生の特別講義
3. 各分野の青森県での課題を予測
4. 企業・施設を訪問、現場と現状を知る
5. 体験を元に青森県をよりよくするためのアクションプラン作成
6. プランを発表、講評してもらう

参加する高校生には希望する夢分野を選択してもらい、夢分野毎に5日間に渡って年間2回の合宿を行います。合宿では、私たちが考えたオリジナルプログラムに参加してもらいます。

さらにオリジナルプログラムの様子をSNSで発信し、県内外にこの「青森県高校生DREAM SUMMIT」の活動をアピールします。この活動をアピールすることで各県でDREAM SUMMITが開かれることを目標にしています。(11)

## プランの目的<sup>14</sup>

- ①青森をよく知る。
- ②縦の交流→視野を広げる。
- ③横の交流→刺激を受けてモチベーションアップ。
- ④将来、青森で活躍する自分を具体的にイメージできる。



- ・青森の人材の縦と横のつながり強化
- ・将来の青森県を担う人材の育成

オリジナルプログラムはこのようなものを想定しています。オリジナルプログラムその1は「ふるさと体験」です。具体的には「地元料理体験」をしてもらいます。青森県の食材を使って料理を作ってもらいます。その中でも「せんべい汁」やB1グランプリに並ぶような新メニューが開発できれば最高のかたちだと思っています。その他にも「三味線体験」、「はねと体験」、「りんごもぎ取り食べるRMT体験」などもやってみたいと思います。その他「漁師になろう・農家になろう」では、漁師や農家の家に泊めてもらい同じ生活をするというものです。その他にもここには無いのですが、青森県の地図にダーツを投げて当たったところにカメラを持って行ってその場所の良いところを探してくるという「青森県ダーツの旅」というユニークな提案も出ました。(12)

## プランを通じて目指すもの<sup>15</sup>

- ・何事についても興味を持ち、積極的に「考動」できる大人。
- ・向上心を持って夢と向き合う。
- ・地元の人々の夢を一つでも多く叶える(地域貢献)

オリジナルプログラムその2は「青森の現状と課題を知ろう」です。まず集まった高校生、100人くらいを想定しているのですが、その中で1人1人自分の夢を発表してもらいます。このことによって自分の夢に誇りを持つことができます。また他の人の夢を聞くことで刺激を受けることができると思います。そして青森のその道のスペシャリストの方々にお話をしてもらいます。これを受けて、より深く考えることができると思います。(13)

## 最終目標は...<sup>16</sup>

「高校生DREAM SUMMIT」を全国に広めて、

### 全国大会開催！

各県の高校生や他国の高校生との交流・意見交換でさらなる成長と地域の活性化を目指す



その後、夢分野毎に活動してもらいます。この夢分野は、福祉教育分野、経済経営分野、医療分野、農林水産分野、理工学分野、アート分野を想定しています。それぞれの夢分野の中で課題を予測し、その予測したことが合っているかどうかを確かめるために企業を訪問して、リアルな現場現状を知ってもらいます。

この体験を基に帰ってきて、現状と予測があったのかを確認し改善策を考え、アクションプランに起こしてもらいます。このアクションプランというのは課題解決のための行動を考え、計画に起こすことです。例えば農林水産分野でいうと、1次産業の後継者不足を課題として考えてみて、そのために若者向けの農業体験や漁業体験をするというプランを考えるなどです。

そしてその考えたプランを夢分野毎に講義の先生や大人、企業の方を呼んで発表し、講評してもらいます。このプラン1と2は内容が豊富なため、2回の合宿にわけて行いたいと考えており、ふるさと体験とプラン2の夢分野に分ける前までのことを1回目とし、それ以降を2回目として考えています。(13)

このプランの目的はまず青森をよく知ることです。そして大人の方と私たち高校生との交流で視野を広げることです。また同世代の高校生との交流で刺激を受け、モチベーションをアップさせることです。また、将来青森で活躍する自分を具体的にイメージできるようにすることです。

このプランを行うことで、青森の人材の縦と横のつながりを強化し、将来の青森県を担う人材の育成ができると考えています。(14)

そしてこのプランを通じて目指すものは何事についても興味を持ち、積極的に考えて動く、「考動」できる大人を作ること、向上心をもって夢と向き合う高校生を育てること、地元の人々の夢を1つでも多く叶えることです。(15)

そしてこの「高校生DREAM SUMMIT」の最終目標は、この活動を全国に広めて全国大会を開催することです。各県にこの活動が広がることで、高校生同士の意見交換をさらに発展させることができ、また、地域の活性化を目指すことが出来ると思います。(16)

## 【質 疑】

### ●<sup>いちのへ</sup>一戸 <sup>ふみお</sup>富美雄議員（青和会）

#### （一戸議員）

高校生の皆さんの他に、地域の方だとか卒業した方だとか大学生だとか、幅広く意見を聞いて作り上げた内容が今回の発表だということで、非常に分かりやすく、そして実現するのにもかなり可能性があるというように感じました。

そこで「20年後」というキーワードがありましたが、具体的には20年ですから皆さんが30代に入っているということですのでけれども、なぜ20年後という設定をしたのかお聞かせください。

#### （回答）

私たちが1回目にワークショップを行った際の講師の先生が、20年前から考えて20年経った今の青森というのが結構変わったと。新幹線の開通など、今まで20年経った中で結構な変化があった、20年というのは長いようで短い期間で結構変わるということがあり、10年後よりも20年後。私たちが37歳になったときにはすごく進歩していると思います。そのようなことで、10年後よりもっと先のことを考えて、次世代の高校生のことまで考えて話し合ったので、「20年後」という近すぎず遠すぎずのようなキーワードがでてきたのだと思います。

#### （一戸議員）

変化するわけですから20年後どうなっているのか分かりませんが、一つの目標としては捉え方が大変いいと思います。

BFMとドリームサミットを含めて、2つのプログラムがありましたが、皆さんがもし実際にやるとしたら、どちらを先にやりたいのかお聞かせください。

#### （回答）

BFMは青森県に協力してもらい私たちも楽しみたいというのがありますが、ドリームサミットは私たちも参加して青森県にもっと関われるということで、BFMとドリームサミットではドリームサミットの方がやりたいと思っています。

#### （一戸議員）

分かりました。ここにいる県議会議員も含めて、夢に前進するというので、これから取り組んでいければと思います。そこで、「格好いい大人」という言葉が出てきましたが、皆さんから見た格好いい大人とはどういうイメージか教えてください。

#### （回答）

「20年後、こんな大人になりたい」というところで、意見がたくさん並んでいました。「胸を張って地元に戻れる」ですとか「積極的な大人になりたい」ですとか、そこで出てきた意見全てが格好いい大人だと思います。

働いている人は皆格好いいですし、世間一般的に普通に生活できる、自分の力で生きていける人は格好いいと思います。私たちもそういう格好いい大人になりたいと思います。

（菊池議員）

縦と横というキーワードがでてきました。上下の関係と友だち同士の関係ということでしたが、普段親御さんと、夢の話であったり地域のイベントであったり、こういうことがあったらいいなということについて話し合われる機会があるのかどうかということについて。また、今日はこうしてたくさんの高校生がいらしていますけれど、同じ高校生同士、学校同士の交流のようなことで、何かしら共通の話題でもってお話をする機会があるのかどうかお聞かせください。

（回答）

1点目の「地域について話し合う機会があるか」ということですが、私は母と、町のこと等について、こういうふうにしたほうがいいんじゃないかと話し合うことがあります。2点目の「他の高校と関わる機会があるのか」ということですが、私は昨年夏、日本の次世代リーダー養成塾というものに行ってきました。そこでは高校生 200 名程度が全国からが集まり、国を代表する素晴らしい方々から講義を受けました。実際にそういうものに参加して今回の案を考えたところです。

（菊池議員）

今回の提案を通じて感じたのは、高校生の皆さん、首都圏とか県外に出たいという思いの中で、やはりいろんな施設であったり、目新しいものであったり、体験をしたいものであったり、おしゃれなお店があったりということが一番大きな目的、あるいは学校が教育機関としてはなかなか充実した環境にないということが1つあるんだと思います。

地域のつながりですとかイベントということを考えてときに、今回もイベントということで大きく出ていましたけれども、そういうことを考えたときに、しからば都会に行くとその辺でたくさんイベントをやっているかという、おそらく皆さんが将来住まわれるであろう都会のアパートがある辺りでたくさんイベントをやっているかという、決してそんなことはなくて、意外と自分達が今住んでいる地域の方が割といろんなイベントがあって、皆さんが参加できるような、色々な役割を担う場面がたくさんあるんだと思うんです。

ぜひ、その辺も見直していただいて、いろんな参加できるものに対しては積極的に参加をして、大人の方であったり同世代の皆さんと色々なお話をしていただきながら、そしてまた地域のことを語らいながら、いただいた御提案をよりもっと具体的に、そしてまた深く話し合ってみてはいかがかなと思います。